

和歌山

地域面3ページ

和歌山支局
 〒640-8154 和歌山市六番丁5
 和歌山第一生命ビル4階
 TEL073(431)1411
 FAX073(433)0650
 wakayama@mainichi.co.jp

【通信機関】
 橋本 0736(32)0063 新宮 0735(28)1751
 海南 073(482)0675 御坊 0738(22)2511
 湯浅 0737(62)2870 田辺 0739(26)1026
 【広告問い合わせ】 073(423)9291
 【購読問い合わせ】 0120-468012

星の占い
 マーク・矢崎
 24日

今年も那智の火祭へ

絵と文・熱田親憲 題字・熱田秦華

熊野古道

みちくさ記

③

今年も「那智の火祭」を見に来ずにはおられなかった。昨年は那智田楽の鑑賞を楽しみ過ぎて、午後の火祭は、すごい人出のため見やすい場所がとれなかつたので、どうしてもま



飛瀧神社の参道(那智勝浦町那智山)にて

たので、どうしてもま4時ごろに現地入り。ちかで見たくて、那智の滝前の熊野那智大社別宮「飛瀧神社」に直行した。あいにくの雨模様であったが、参道近くの要所、要所はすでにアマチュアカメラマンで占められていた。結局、参道最前列のカメラマングループの後ろに陣取ることができた。時計をみると午前10時半。大松明が現れる午後2時まで待たないので、どうしてもま4時ごろに現地入り。「大松明の担ぎ手とケアする氏子を撮りたい」と、思いは熱い。午後1時半、伏拝扇立神事の開始がアナウンスされると、山中の客席は一瞬静まり返った。雨雲もいつの間にか去って晴れ間が現れた。木々の隙間からみえる御滝の流れに水かさを感じ、重なる水しぶきの白さに扇神輿を迎える心意気がうかがえる。徐々に増す炎の勢い。汗はむ担ぎ手は、参道わきの石垣に松明をぶつけて火勢を調節し、お付きの氏子は火の粉を抑えるために、手桶から汲んだ水を口にふくんで霧吹きをして、「ハーリヤ、ハーリヤ」の掛け声で石段を登り、扇神輿を迎える。ここから大松明の炎は扇神輿を清める役目となり、風向きを変えて石段を下りてゆく。担ぎ手は大松明の

大松明の炎 人格を見た

間はあるが、場所を離れるわけにいかず、結局周囲の人と世間話をして、時を過ごすことになった。大阪から自動車4時間かけて初見学の熟年夫婦。暇が出来たので名古屋から駆けつけたというカメラ好きの青年。スペースを空けてくれたカメラマンのグループ。そのリーダーは那智勝浦町出身の大阪人で、今日は午前12体が点火された。午後1時50分、飛瀧神社前で小松明が点火されて、一の使い、二の使い、三の使いが順次、ペアで階段を登って来る。一方神社境内の隅では遙拝神事が行われ、間もなく鳥居脇の火付場が急に明るくな

(次回)は8月28日掲載
 火の祭 秦華